

地域創生学(医療・福祉)

津山市への提言

高齢者と関わる高校生の組織
(ミニっと)を作る

子供と高齢者がふれあえる交流会を実施します
高校生も参画できて、その場にいる全員が楽しめるものにします



提言にあたって

ミニっと:市と連携して高校生が主体となって小・中・高校生と高齢者が関わることのできる会を開催する組織

ねらいや効果として

- ・継続した異世代との交流
- ・地域と関わりを持つことで健康に生きられる。
- ・自分の地域に住んでいる人たちを知ることによって困ったときに助け合うことができる。

高齢者と子どもが関われる交流会:ミコ

ミコ:高齢者、高校生、子供(小中学生)の頭文字

- ◆開催頻度:月に一回
- ◆対象:小~高校生と地域の高齢者(小学生は保護者同伴可)
- ◆時間:二時間程度
- ◆高校生で実行委員会を結成(津山市の県立高校四校から各1名)



津山市の現状と課題

現状

- 2025年問題・少子高齢化
- 高齢者と若者の交流する場が少ない

- 福祉専門職の不足

課題

- 少子高齢化により増えていく高齢者の健康を維持すること
- 子供が出ていき一人暮らしの高齢者がいる
 - 部屋に閉じこもっている
 - 人と関わる機会が少ない
- 同年代とは関わっているが異世代と関わる機会がない

私達にできること

- ミニっとについて宣伝したり、入会する人を募集する。
- 社会問題に目を向けるきっかけをつくる。
- 市と連携してミニっとの運営をする。

現状から予測

- ◆少子高齢化によって若者一人あたりが負担する介護保険料が増える
- ◆福祉専門職の不足によって家族の介護を担う必要がある
 - ⇒ 将来的に金銭面、労働力の負担が増える

提言から得られる効果

- 子供と高齢者の交流が増えることでお互いに親近感が湧く
- 地域とのつながりをもてる
 - ➔ 非常時や少しの異変に早く気づき対応できる
- ★つながりが多いと2倍長生き(認知症・うつ病発症防止)

〈津山市に求めること〉

- 場の提供(体育館や公民館の貸出)
- 参加者募集への協力(ホームページへの掲載など)
- 地域と高校生の仲介
- 定期的な開催への協力

